

成熟都市京都における教育の 歴史的変遷と課題

田 中 圭治郎

はじめに

京都は学問の都といわれる。京都の教育力が他の諸地域に比べ抜群に大であることを意味している。それは京都が少なくとも江戸時代以前、長い期間にわたって日本の政治、文化、経済の中心であったことと関連している。江戸時代においても、天皇の存在が京都をして日本文化の中心地としての役割をはたさせていた。その意味で京都人は文化的に誇りを持ち、日本の他の地域とは異なる教育観を持っていたのである。すなわち、教育は自分たちが作り出すものであり、他から与えられるものではなかった。その典型的な例は、石田梅巖により始められた石門心学である。1729（享保14）年、京都車屋町通り御池上ルで開設された講席は、神道、儒教、老荘、仏教といったいろいろな思想をその時々に取り入れた哲学談義であった。つまり、当時の町人の人生哲学を分かり易く述べたものであり、町人の生き方を示唆する教えであった。この思想とはどのようなものかを鳩翁道話を引用することによりみてみたい。

「聖人の道もチンプンカンプンでは女中や子供衆の耳に通ぜぬ。心学道話は識者のために設けました事ではございませぬ。ただ家事に追はれて隙のない、町人衆へ、聖人の道ある事を御知らせ申したいと、先師の志でございします故、随分詞を平うして、譬を取り、或は落し話をいたして、理に近い事は神道でも仏教でも、何でもかでも取込んで、御話し申します。かならず軽口話の様な御笑ひ下されな。これは本意ではござられども、ただ通じ安い様に申すのでございします。」¹⁾

この文章を読むと、石門心学では、儒教、仏教を取り入れたものであり、当時ほとんど教育の機会が与えられていなかった女性や、学問とはあまり接触のない人々に、「聖人の道」を教えることを目的としていたということが窺われる。また、石田梅巖

1) 高橋俊乗『日本教育史』、目黒書店、1938年、278～280頁。

表1 心学舎開設の情勢と開設をみた地域²⁾

年代 地方	心学者の開設をみた国の数					心学舎の開設数				
	明和元 天明6	天明7 享和3	文化元 文政12	天保元 慶応3	合 計	明和元 天明6	天明7 享和3	文化元 文政12	天保元 慶応3	合 計
関 東	1	5	2	4	(6)	3	14	4	6	27
奥 羽		1		3	(3)		1		3	4
中 部	2	3	5	4	(8)	2	14	9	6	31
近 畿	7	11	10	9	(13)	17	24	21	17	79
中 国		2	8	5	(10)		3	13	7	23
四 国		2	2	1	(3)		3	2	1	6
九 州			1	1	(2)			1	2	3
全国合計	10	24	28	27	(45)	22	59	50	42	173

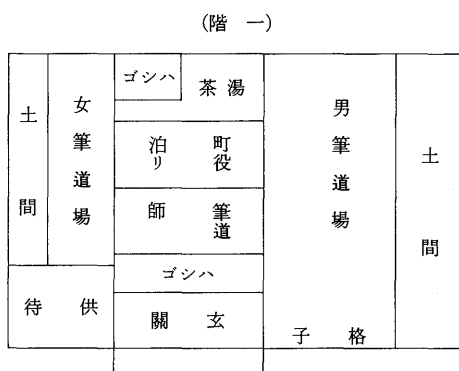
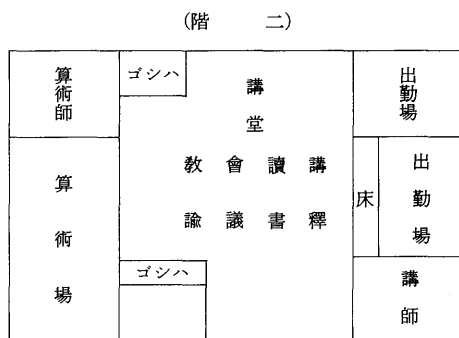
の「何月何日開講。席錢いり申さず候。無縁にても御望みのかたは遠慮なく、御通り御聴きなさるべく候。女中がたも奥へ御通りなさるべく候」という言葉からわかるように、すべての人々に彼の講話を聞いてくれるように求めている。席錢はなくてもよい、全然関係のない人でも聞いてくださいと述べている。

石門心学の思想は手島堵庵、中沢道二等の弟子たちにより、表1のように日本全国に伝播していく。従来、京都から日本各地に広まっていく思想は政治権力者の思想であったが、江戸時代に入ると、町衆の思想、すなわち庶民の立場で思考された考え方が京都から出現していったことは注目に値することであろう。京都の文化は単に天皇を中心とする公家だけでなく、町衆を中心とする一般民衆によっても創出されていたのである。明治以降の京都の教育を考える時、京都の経済を支える町衆の存在を無視できないのである。

1. 明治期の初等教育の成立過程

a. 慶応3年王政復古がなされ、翌明治元年、東京遷都がなされたときから京都は衰退の危機にさらされることになる。このような危機感の下で京都の町衆は、西谷良圃、熊谷直孝を中心として小学校を設立しようとする。このことは単に教育施設を作ることだけでなく、京都の町起こしを意図したものであった。疎水の建設事業、水力発電所建設、勧業場と軌を一にしたものであった。京都府の榎村正直、山本覚馬、明

2) 長田新監修『日本教育史』、御茶ノ水書房、1961年、142頁。

図1 明治初期の京都市の小学校の建物³⁾

石博高など行政的支援があったこともこれらの事業の実現には必要なことであった。図1, 2は当時の小学校の見取り図である。図1は府のモデルの小学校の地図である。男子と女子の部屋は別々であり、男子の部屋の方が数倍大きいことがわかる。また、町役泊りや講堂など町の文化活動も兼ねている。図2をみると小学校の敷地は民家の間にあり、敷地面積も民家一軒分にしかなく、現在の小学校のように遊び場などはなかった。当時の町組会所をそのまま小学校の校舎にしたことが窺われる。また新たに校舎建設の場合、各町組がその経費を負担しなくてはならなかったが、財政的負担が多く、府からの下賜金に依存していた町組がかなりの数にのぼっていた。

次に引用するのは明治2年に出された「小学校維持のため組中結社する申請」である。

3) 京都府教育会『京都府教育史 上』, 昭和15年, 261頁。

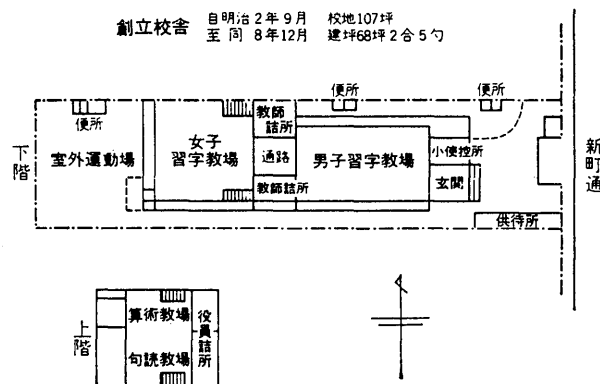
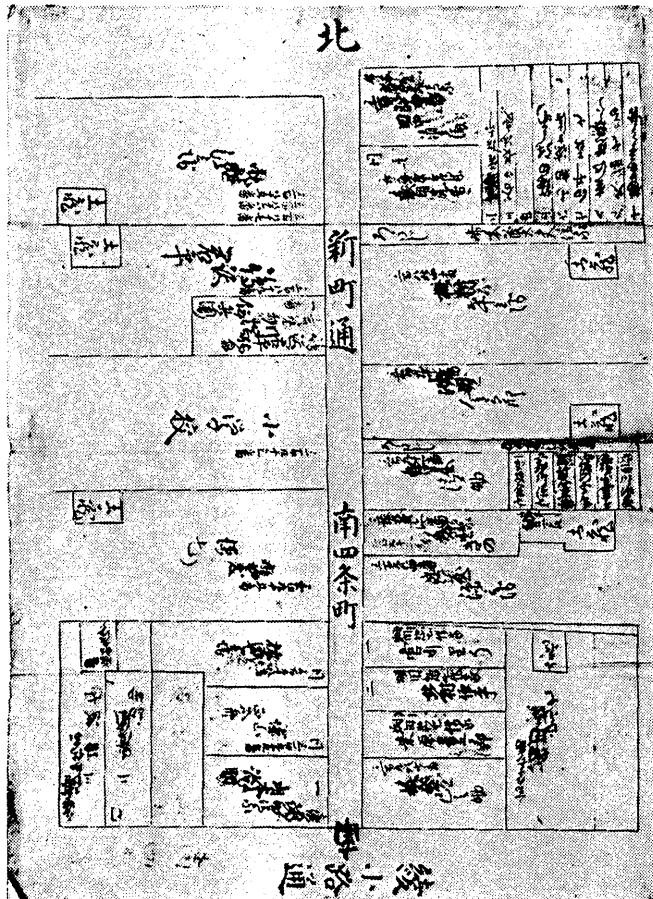


図2 明治初期の京都市の小学校の見取り図⁴⁾

4) 京都市史編さん所『京都の歴史 7 維新の激動』, 学芸書林, 昭和49年, 505頁。

「小學校維持のため組中結社する申請」⁵⁾

(明二, 一〇, 一八)
(府史 學政類)

(一) 乍恐口上書

先般難有御趣意ヲ以テ小學校所御建營被成下其上右御建營ニ付御金八百七十八兩三分御下ケ被成下内半高四百四十三兩三分二朱ハ組中へ被下置殘半高無利足十ヶ年賦ニ返上納之儀御聞届被成下冥加至極難有仕合奉存候然ル處尙又此度右小學校所永續方之儀ニ付種々難有被 仰出奉拜承候付組中同志之者共申談社ヲ取結ヒ別紙名前帳面前條仕法書之通小學校永續方并組中救難之者助成方且社中互ニ救合候仕合相立候右ニ付テハ種々

御上様奉蒙

御仁恵居候テハ同志一統誠以奉恐縮候付前顯拜借御金毎年十二月奉上納候節小學校御建營爲御冥加十ヶ年之間年々金廿兩ツ, 奉獻納申度奉願上候御慈悲ニ右之趣御聞届被成下候ハ, 難有可奉存候以上

明治二巳年十月十八日

下京十四番組

中年寄

吳竹彌太郎

添年寄

安田與兵衛

同志惣代

兩替町

河内屋善兵衛

吉水町

津國屋勘兵衛

(朱書)
京都府日誌

御 政 府

(朱書)
別紙

- 一 自今社中へ金子預ケ度モノハ會社請取書ヲ相渡月一分之利足相渡候事
 - 一 商用元金借用頼出候節ハ月一分半之利足取之貸遣候事但證札之儀ハ會社定法之通ニ候事
- 右之通社中一統熟談取極候事

5) 京都府立総合資料館編『京都府百年の資料 教育編』, 昭和47年, 12~13頁。

巳十月

下京十四番組

會社 ^(朱書) 全上

(二)

- 一 先般小學校御建營被成下候ニ付テハ永續方之儀ニ付從御府難有被 仰出モ有之猶組内究難之者救助方等被 仰出候ニ付難有御趣意ニ基キ組内同志之者申談社ヲ取結ヒ永續之仕法相立候廉々左之通
- 一 社中基立金之儀ハ同志一統身上ニ應シ出金致其出金高相束基立ニイタシ候事
- 一 小學校入費組中軒役ニ割掛ケ候テハ永續難仕候ニ付右基立金ヲ社中申談組中渡世差間候モノヘ貸遣シ其利足ヲ以入費相償候事
- 但借主之儀ハ伍組又ハ互ニ社ヲ結ヒ候者連印書付取之候事
- 一 小學校ニ付半季毎ニ組中一ト竈ヨリ金一分ツ、差出候借家住居之モノニハ可及難儀モノモ有之候付右之内極難澁人之外凌方相付兼候程之モノハ差除遣社中ヨリ貸付候金之利足ヲ以相償候事
- 一 社中之内自分之出金手元ヨリ他ヘ相廻シ度旨申立候モノハ其出金高之利足金社中ヘ差出候事
- 一 社中之内ニ及零落候者有之候ハ、社中基立金ヲ以仕法相立互ニ助合候事
- 右之通仕法相立候付社中連印名前帳面奉差上候以上名前帳面今畧之

明治二巳年十月 大年寄 北條太兵衛

中年寄 吳竹彌太郎

添年寄 安田與兵衛

京都府日 (朱書)
誌原記

(三) 乍恐口上書

- 一 私居町下京十四番組中同志申合小學校所永續方救難助成方等之仕法相立社ヲ取結ヒ連印名前帳面奉差上候ニ付誠以恐多御願ニハ御座候ヘトモ右社中會銘之儀乍恐御下知被爲成下候様不顧恐此段願上候右之趣御許容被成下候ハ、難有可奉存候以上

明治二巳年十月 大年寄

北條太兵衛

御政府

^(朱書) 全上

この申請書をみると京都府からの補助金と各町組負担金により小学校が設立、維持

されていることがわかる。また、町衆が自発的に、積極的に学校維持を図ろうとしていることが窺われるのである。

次に小学校での授業内容について述べてみる。表2をみると、句讀、譜誦、習字、算術の4つの領域に別れているが、近代的なカリキュラムというよりは、寺子屋的色彩が濃く出ている。公用文、諸職往来、商売往来、五十韻平カナ、片カナといった教育内容は、旧態依然たるものであり、教師の意識も江戸時代とは変化はなかったようである。また、小学校就業規則は表3のごとくである。これをみると、午前6時から午後4時または正午までで、休日は日曜日ではなく、町衆の労働日に合わせて、1日と15日の月2回であった。そして、儒書講釈と心学道話がカリキュラムの中に組み

表2 小学校のカリキュラム⁶⁾

小 学 校 課 業 表				
算 術	習 字	誦 譜	句 讀	第
開開開開求必 立平平用 立平平用 問方問方積問	即公 題用 手用 東文	獨英外外内 語國國國 五里旗 百言程章	太萬易日 政國本 官知外 諸公 規則法錄史	第一等
比 例 例 問法	復諸諸世 職話 券千 往字 文來狀文	獨英本内 語國國 學邦國 三遼海 百里 言程程	西眞五日 洋政本 事大政 情意經記	第二等
筆珠 分諸 數等 諸修 法法	私商諸 賣國 用郡 文來名	獨英帝 語學 一 百言 號	生地小孟國 產學 道史 案事 內始學子略	第三等
除 珠 乘算 兼筆 法法	京山苗受 城郡取 都郡字 町村諸 地名盡券	國年 名號	窮世論學戶職 理界 籍員 圖國 解盡語庸法令	第四等
減 珠 加算 兼筆 法法	名三支數五 枚十 御韻 高片平 頭札千名ナナ	五 十 韻	府町郡市孝小學 役中中子弟 縣村役制制心得 心役制制心得 名得法法經章	第五等

6) 京都府教育会前掲書，282頁。

表3 小学校就業規定⁷⁾

- | |
|--|
| 1. 毎日暁6ツ時（午前6時）より夕7ツ時（午後4時）。その後の修業も勝手次第暑中は昼9ツ時（正午）まで修業。
2. 休日は毎月1日と15日。
3. 毎年正月15日稽古始め、12月20日稽古終り。
3月3日、5月5日、6月14日（祇園祭）、7月7日、13日、14日、16日、9月9日、9月22日（天長節）、11月25日、以上 休日。
4. 毎月2と7の日は儒書講釈、3と8の日は心学道話。 |
|--|

込まれていた。

明治7年京都府が文部省に報告した「京都学校の取調書」は京都の教育事情を如実にしめしている。

「京都学校の取調書」⁸⁾

- 一、区内ノ児童ヲ奨励シテ校ニ就キ、学ニ従ハシムル事
- 二、他所ヨリ入学ヲ願フモノアレハ、之ヲ糺シテ或ハ之ヲ許シ或ハ之ヲ拒ム事
- 三、読書習字算術諸誦ヲ四項ニ分チ、専ラ日用的実ノ事ヲ学ハシムル事
- 四、公布ノ諸規則諸布告ヲ汎示シ、及ヒ其疑問ヲ受テ之ヲ解示スル事
- 五、区内ノ人民公会集議スル事
- 六、区長出席シテ戸籍ヲ取調ル事
- 七、知参事以下諸官員時々臨校、民苦ヲ問ヒ、或ハ説諭ヲ行フ事
- 八、番人ノ屯所トシ区内ヲ巡廻シ、非常ヲ防カシムル事
- 九、区内ニ旅人ノ止宿来去等、及ヒ盜賊乱暴人其区内取締ニ関スルコトヲ届ケ出ル所トス
- 十、火防ノ諸器械ヲ備ヘ置キ、区内ノ壮丁ヲ点シ火災ヲ防カシムル事
- 十一、日ヲ定メ、区内ノ小児ヲ集メ種痘ノ所トス
- 十二、報鼓ヲ置キ、区内ノ者ヲシテ惜陰ヲ知ラシムル所トス
- 十三、区内ノ諸簿ヲ備ヘ置キ、毎件搜索ニ便スル事
- 十四、区内ニ非常アレハ官員出張檢察スル事
- 十五、地税印紙其他官納ニ係ル者、必此校ニ出サシメ区長等点檢整理ニ便スル所トス

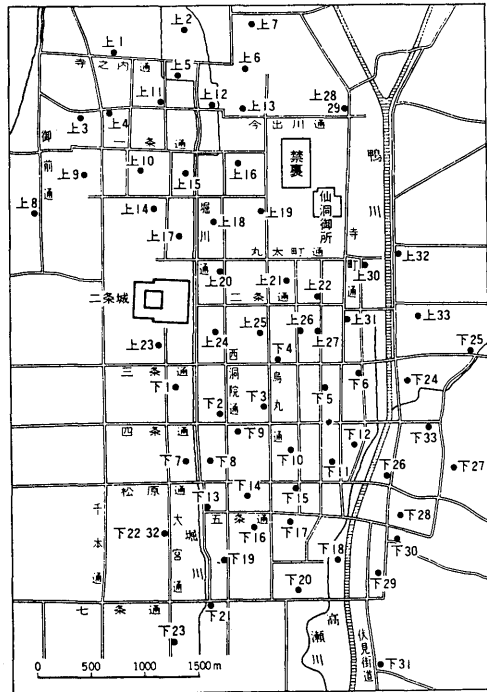
7) 『京都の歴史 7』, 511頁。

8) 前掲書, 512～513頁。

十六、巡講師出張シテ諸布告ヲ講スル所トス

「区内ノ人民公会集議スル事」は町（後に区と呼称変更する）の行事の中心的な場所であることを意味しているし、「区長出席シテ戸籍ヲ取調ル事」とは役所の機能を

上1	新猪熊東町	乾隆小学校
上2	上天神町	成逸小学校
上3	大文字町	翔鷹小学校
上4	般舟院前町	嘉楽中学校
上5	土田町	西陣小学校
上6	木下突抜町	室町小学校
上7	竹園町	室町小学校
上8	仲之町	仁和小学校
上9	四番町	仁和小学校
上10	多門町	正親小学校
上11	観世町	桃園小学校
上12	仲小川町	小川小学校
上13	畠山町	室町小学校
上14	西天秤町	出水小学校
上15	北俵町	聚楽小学校
上16	三丁町	中立小学校
上17	大黒町	待賢小学校
上18	勘兵衛町	滋野中学校
上19	中出水町	滋野中学校
上20	東竹屋町	梅屋小学校
上21	楠町	竹間小学校
上22	鍛冶屋町	富有小学校
上23	姉西町	教業小学校
上24	下古城町	城巽小学校
上25	龍池町	龍池小学校
上26	栲町	初音中学校
上27	守山町	柳池中学校
上28}	元立本寺前町	京極小学校
上29}		
上30	伊勢屋町	春日小学校
上31	榎木町	銅駝中学校
上32	東丸太町	錦林小学校
上33	新東洞院町	新洞小学校
下1	上黒門町	乾小学校
下2	空也町	本能小学校
下3	占出山町	明倫小学校
下4	梅忠町	日彰小学校
下5	骨屋町	生祥小学校
下6	大黒町	立誠小学校
下7	徳屋町	郁文中学校
下8	太子山町	格致小学校



下9	南四条町	成徳小学校
下10	仏光寺西町	豊園小学校
下11	鍋屋町	開智小学校
下12	富永町	永松小学校
下13	小泉町	醒泉小学校
下14	徳万町	修徳小学校
下15	樋之下町	有隣小学校
下16	南蛭子町	尚徳中学校
下17	大津町	稚松小学校
下18	菊屋町	菊浜小学校
下19	山川町	植柳小学校
下20	皆山町	皆山中学校
下21	土橋町	安寧小学校
下22}	中堂寺前町	淳風小学校
下32}		
下23	古御旅町	梅逕中学校
下24	元町	有濟小学校
下25	大井手町	栗田小学校
下26	下柳町	新道小学校
下27	上弁天町	清水小学校
下28	門脇町	六原小学校
下29	茶屋町	貞教小学校
下30	下新町	修道小学校
下31	下池田町	一橋小学校
下33	祇園町南側	弥栄中学校

図3 小学校の立地場所と地名⁹⁾

9) 前掲書, 506頁。

表4 「小學校および歐學舎教員數調」¹⁰⁾(明四、一二、一九)
(府史 學政類)

公私學校私塾及教員一覽表 第三大學區 京都府

	學名 塾名	位 置	教員 男 女		外國 教師 男 女	
			男	女	男	女
公學 獨	歐學舎	第三大學區第一中學區 上京下立賣釜座			一人	
英	全	全			一人	
佛	全	全			一人	一人
上京	第一番小學	全堀川通寺之内	五人			
	第二番小學	全室町頭竹園町	三人			
	第三番小學	全寺之内千本東	四人			
	第四番小學	全大宮通上立賣上	四人	一人		
	第五番小學	全新町室町ノ間寺ノ内上	三人			
	第六番小學	全元誓願寺七本松東	四人			
	第七番小學	全今出川通千本東	三人	一人		
	第八番小學	全大宮通今出川上	四人	二人		
	第九番小學	全小川通今出川上	四人			
	第十番小學	全室町新町ノ間今出川上	三人	一人		
	第十一番小學	全寺町通今出川上	四人	一人		
	第十二番小學 第十一番ニ合併					
	第十三番小學	全御前通下立賣	三人			
	第十四番小學	全内野四番町	三人			
	第十五番小學	全中立賣裏之門	四人			
	第十六番小學	全葭屋町通中立賣下	三人			
	第十七番小學	全中立賣通新町	四人			
	第十八番小學	全出水通日暮角	四人	一人		
	第十九番小學	全猪熊通樺木町	四人			
	第廿番小學	全小川下立賣上	三人			

10) 京都府立総合資料館前掲書, 23~28頁。

	第廿一番小學	全 出水通室町東	三人			
	第廿二番小學	全 河原町通丸太町下	三人			
	第廿三番小學	全 間ノ町夷川上ル	三人	一人		
	第廿四番小學	全 富小路通二條上	四人			
	第廿五番小學	全 姉小路通神泉苑町	三人			
	第廿六番小學	全 丸太町通新町	二人	一人		
	第廿七番小學	全 油小路通御池上	二人	一人		
	第廿八番小學	全 御池通兩替町西	二人	一人		
	第廿九番小學	全 高倉通御池上	二人	一人		
	第三十番小學	全 富小路通御池上	四人			
	第卅一番小學	全 二條通寺町東	五人			
	第卅二番小學	全 東河端通丸太町上	三人			
	第卅三番小學	全 二條通新東洞院町	五人			
愛宕郡	第四十番小學	全 吉田村	五人			
計	三十七		百十六人	十一人	三人	一人
公學						
下京	第一番小學	第三大學區第二中學區 新シ町六角下	五人			
	第二番小學	全 錦小路通油小路東	三人			
	第三番小學	全 錦小路通馬丸西	四人			
	第四番小學	全 高倉通六角下	四人			
	第五番小學	全 富小路通六角下	三人			
	第六番小學	全 河原町通三條下	四人			
	第七番小學	全 古門前通繩手東	五人			
	第八番小學	全 三條通白川橋西	四人			
	第九番小學	全 岩上通佛光寺下	五人			
	第十番小學	全 油小路通高辻上	三人			
	第十一番小學	全 新町通綾小路上	四人			

第十二番小學	全 佛光寺通東洞院東	三人
第十三番小學	全 麩屋町通高辻上	三人
第十四番小學	全 寺町通四條下	五人
第十五番小學	全 祇園町南側	四人
第十六番小學	全 大宮通松原下	三人
第十七番小學	全 醒井通五條上	四人
第十八番小學	全 室町新町ノ間松原下	三人
第十九番小學	全 高倉通松原下	三人
第二十番小學	全 新道通柳之圖子	三人
第廿一番小學	全 元六波羅密寺町内	四人
第廿二番小學	全 廣道通松原上四町目 ^(マ)	四人
第廿三番小學	全 花屋町通西洞院西	三人
第廿四番小學	全 新町通五條下	三人
第廿五番小學	全 間之町五條下	四人
第廿六番小學	全 六條新地菊屋町	三人
第廿七番小學	全 大佛正面本町東	四人
第廿八番小學	全 馬町建仁寺町東	三人
第廿九番小學	全 七條油小路西	五人
第三十番小學	全 間ノ町東入七條上	三人 一人
第卅一番小學	全 大佛下池田町	四人
第卅二番小學	全 西九條境内古御旅町	四人

三十二

百十九人 一人

持っていることを示している。「番人ノ屯所トシ区内ヲ巡廻シ、非常防カシムル事」とは、小学校が当時の平安隊による警備の屯所であり、警察の機能を兼ねていた。「火防ノ諸器械ヲ備へ置キ、区内ノ壮丁ヲ点シ、火災ヲ防カシムル事」とは、消防署の役割を果たしていた。そのため各小学校には望火楼という火のみ櫓が存在した。また種痘接種といった保健所の機能もあり、地域社会の総合的機能をはたす建物であった。こ

れらを見ると当時の小学校はさまざまな機能を併せ持っていることが分かる。

明治2年5月21日、日本最初の小学校が設立された。上京第27番組（柳池）小学校である。以後、上京32校、下京32校合計64校の小学校が作られて行く。図3は小学校の位置、地名と後の小学校（中学校）名である。また表4は小学校の教員数を表したものである。当時の教師は当然のことながら男性が圧倒的におおいが、女性も存在することは、明治4年という時代を考慮すると、小学校教育での女性の活躍の前兆といえるであろう。しかしながら、各校とも4人前後しか教員はおらず、学校の規模は少なく、かつ生徒数もわずかであったことと推測される。

b. 中等・高等教育

《中等教育》

中学校設立の動きは小学校と時期を同じくしていた。小学校での学業成績優秀である児童を上京、下京に各1校ずつに開校されるべき中学校に進学させるのがその当初の目的であった。しかしながら、明治3年に旧京都所司代跡に開校した京都府中学校は、慶応3年にできた学習院、後の皇学所、漢学所さらに京都大学校になった教育施設を受け継いだものであった。この教育施設は、当初の計画のように町衆によってつくられ、庶民の子どものための教育機関とはならなかった。それゆえ生徒の華士族、神官、僧侶といった支配階級の子どもたちで占められていた。またそれらの子どもたちは町組小学校には通学せず、中学校に付設された小学舎で学んでいた。このように京都府中学校は身分制を色濃く残していた。これに反し、外国人によって設立された独逸学校、英学校、仏学校などの欧学舎では庶民の子どもたちを積極的に受け入れていた。

明治5年の「学制」発布の後、文部省は「学制」どおりの中学校を求めたため、従来の中学校を「仮中学」として存続させた。小学校が「学制」の小学校と学区の大きさ等で異なっていたにもかかわらず存続し続けたのとは対照的である。小学校が京都市民から支持され、京都府、文部省もその力を無視できなかったからであろう。「仮中学」は明治12年に整備して京都中学として発足した。しかしながらこの中学は維持が困難なため、一時期本願寺にその経営を委ねたこともあり、あまり教育的に機能しなかった。明治32年中学校令の改正の結果、従来のものを京都府第一中学校と改称し、さらに4つの中学校が増設されることにより、中等教育がようやく拡充されていくのである。初等教育が全国にさきがけて素晴らしい教育的役割を果たしていったのとはかなり趣を異にしている。

それ以外の学校としては、明治13年京都府画学校が設立される。これは後に京都市画学校、京都市立美術工芸学校、京都市立芸術大学となる。明治19年京都府京都商業学校が開校し、後に京都市立西京商業高校となる。同じく19年京都染工講習所が設立される。これは現在の洛陽工業高校である。とくに実業学校は商業、工業ともに京都市民の中に定着し、とくに商業学校は京都の実業界を支え、かつ支えられていたのであった。次に引用するのは、明治6年に作られた舎密局のカリキュラムである。舎密とはケミストリー（化学）の和訳であり、明石によって設立された理科教育の中等教育機関であった。この機関は後に大阪に移転され、さらに第三高等学校に衣替えしたのち、京都に戻って来るのである。

「舎密局薬物學等課業表の布達」¹¹⁾

(明八、一二、九)
(府史 衛生 類)

第四百八十三號

薬物業之輩其家業可相續子弟或ハ其業見習人及向來薬舗營業志願之者ヘハ舎密局ニ於テ「ヘルツ」氏授業可致候則教授課業表別紙之通候條本年第九拾六號布告ニ照準可願出事

但少年生ハ二十年以下晩年生ハ二十年以上ノ者ニ候晩年ト雖モ少年生課目受業志願之者ハ此限ニ非候事

右之趣管内無洩相違者也

明治八年十二月九日

京都府權知事楨村正直

(朱書)
別紙

(朱書)
布令

晩年生課業

月曜日

自午前九時至同十時 自然薬物學

火曜日

自午前十時至同十二時 化學

水曜日

自午前十一時至午後一時 調劑學

木曜日

自午前九時至同十時 自然薬物學

11) 前掲書、262～263頁。

自午前十時至同十二時	化學
金曜日	
自午前十時至同十二時	化學
土曜日	
自午前十時至同十二時	調劑學
少年生課業	
月曜日	
自午前十時至同十一時	理學
火曜日	
自午前九時至同十時	鑛物學
水曜日	
自午前九時至同十時	植物學
自午前十時至同十一時	理學
金曜日	
自午前九時至同十時	鑛物學
土曜日	
自午前九時至同十時	植物學

中等教育機関として無視できないのは同志社英学校の設立である。新島襄は、後に京都府知事になる、槇村と親しく、また文部省とも太いパイプを持っていた。新島は山本覚馬、デービスとともに同志社を設立した。熊本バンドと呼ばれていた海老名弾正、徳富蘇峰ら熊本洋学校出身者を多く受け入れ、新しい学校を作っていた。同志社の存在は京都の教育を述べる時には避けることができないほど大きな位置を占めているのである。京都はさまざまな宗教団体の本山が存在するところでもある。それぞれの宗派で教育組織をつくっていく。西都大学林（佛教大学の前身）が明治3年に、西本願寺大教校（龍谷大学の前身）が明治9年に、妙心寺派普通大教校（花園大学の前身）が明治19年に、各宗教団体が自分たちの後継者養成機関、また宗教教育機関として中等教育機関を設立していく。

明治6年柳池小学校に府下最初の女紅場が設置される。この教育機関は女子のためのものであり、普通科と職業科にわかれており、普通科は英語を中心とした一般教養が中心であり、時代が下るにつれて、女学校となっていく。それに対して、職業科は裁縫、紡績・機械の操作、茶道・華道など庶民の女子にとって必要な知識を教える場

であり、のちの職業高校につながるものであった。女紅場は、財政難のため、明治20年前後から衰退していくが、女性のための教育機関として作られたことは注目に値する。明治初期の女性差別の中で、男女別学という限界はあるが、女性の自立を意図した女紅場が多く存在したことも事実である。

《高等教育機関》

京都の高等教育の嚆矢は同志社大学であろう。新島襄は、自分の理想とする学園をまず最初に大阪で実現しようとした。大阪の府知事から拒否された新島は、榎村、山本の招きでキリスト教の理想郷を京都の地に作ることを決意する。山本所有の旧薩摩藩邸に前述のように同志社英学校をつくるのである。新島と山本の同志が結社をつくったのである。山本という京都府の高官の後援があったこそ同志社が成立したのである。さらに、当時の生徒たちは、東京への憧れが強かったにもかかわらず、京都で敢えて学んだのは新島の個人的魅力に負うところが大きであった。同志社は、英学校を高等中学校とし、さらに大学へと充実させるべくさまざまな努力を重ねていく。新島はアメリカのキリスト教会、東京の大隈重信、渋沢栄一などの有力者や京都市民の義捐金などを基にして大学設立を図ったが、文部省の認可はなかなか下りなかった。大学として認可が下りるのは明治31年と時代が下るのであるが、市民の寄付行為に代表されるように、また仏教の諸宗派の強い反対にもかかわらず、同志社は京都市民の心の中に深く浸透していったのは事実であろう。

明治19年、第3高等中学校が大阪から京都に移転が決定された。この動きは京都市民の熱心な移転運動の結果であった。京都府知事北垣国道の援助の下、市民は力を合わせて近畿地方における高等教育の中心を大阪から京都へと移したのであった。同志社の榎村、第3高等中学校の北垣の両名の存在が今日の学問の都京都の存在を可能にしたのであった。この学校は明治27年、第3高等学校と名称変更され、さらにその上の教育機関として、明治29年、京都帝国大学が2番目の帝国大学として誕生する。

京都帝国大学初代書記官中川小十郎は、帝国大学の教育を京都市民に開放する意味で、明治32年、当時成立した法科大学の教授陣をそっくり借り受け、夜学の京都法政学校を開校した。明治37年大学部を設置し、これが後に立命館大学となる。このように、京都の高等教育は、同志社大学、京都大学、立命館大学を中心にさらに充実、発展していく。それ以外に、大谷大学、龍谷大学、佛教大学、花園大学等の仏教系教育機関が当初は専門学校として、後には、大学としてその教育的機能を果たしていく。

京都における教育は中等教育はあまり活発ではない。すなわち、初等教育機関は日

本全国より数年早く、かつ独自の学区、複合的な性格をもったものであり、京都市民が自分たちで作りだしたものであったのに対して、中等教育機関は当初、身分制を残したものであるとともに、一時期宗教団体（本願寺）にその経営を委ねたことからわかるように、財政的・行政的にも充実していなかった。しかしながら高等教育は、日本を代表するような大学が出現していく。これも京都市民の粘り強い努力の結晶である。中等教育の問題点は、第2次世界大戦後の中等教育の改革の中で、如実に出て来るのである。

3. 戦後の教育改革

第2次世界大戦が終了するとともに、日本にはアメリカ軍が進駐してきた。京都も例外ではなかった。アメリカは、6・3・3制の教育制度を確立するため、新たに新制中学校を作ることを求めて来た。ジュニア・ハイスクールの考え方が日本に持ち込まれたのであった。アメリカ第一軍団教育部アンダーソン、マクレラン、京都軍政部教育課ケーズと府教育部長・学務課長、市教育局長・高等教育課長との会合がもたれた。いろいろな論議が交わされていくが、アンダーソン、ケーズの強硬な意見に押し切られてしまう。とくにケーズは京都を新しい日本の教育のモデルにしたいという願望が強く、この会議の結果、次の4原則が了承された¹²⁾。

- 1, 第七・八学年生徒の完全収容のため、該当生徒数、学級数の調査を行い、(イ)全市の学区を検討の上再編成し、(ロ)その地域内のあらゆる学校を義務制優先の立前をもつて利用する。この際、地域内学校は府立たると市立たるとを問わず、これを一つのシステムとして考え、私立学校を併せ考え、さらに転用可能施設をも考慮する。
- 2, 第七・八学年は男女共学制によつて自由（無料）な義務教育が授けられなければならない。
- 3, 第九・十・十一・十二学年については、(イ)(1)の措置のあとに残つた学校を使用し、(ロ)地域を考慮して、(ハ)可能な範囲においては収容を計る。
- 4, 私立学校に対しては、この計画遂行のために協力することが要請され、その際はこれに相当する補助（委託費）が与えられねばならない。

12) 京都府教育研究所『京都府教育史 戦後編』, 昭和31年, 124頁。

この考え方は、初年度は第7、8学年を、2年度目からは第9学年を義務教育化することを意図していた。そのため、初年度は、新制中学2年、旧制中学4年で出発した。他府県では、まず旧制中学の新制度への切り替えが優先され、新制中学は2部制3部制の授業は当然のことと考えられていたのに対して、京都では事情を異にしていた。府市では中等学校をほとんど高校へ昇格させる案で進んでいたが、この方針が変更され、新制中学をまず完全に整え、高校昇格は第2次的に考えるようになった。そのため、伝統のある府立第1中学校は新制中学のために、その校舎を明け渡さねばならなかった。それ以外にも表5に示すように、多くの旧制中学が、新制中学に校舎を明け渡した。

また旧制中学が新制高校に昇格した後も、校舎不足のために表6のように複数の高

表5 旧制中等学校校舎転用状況（昭23年度）¹³⁾
（元中等学校名）

洛南中学校	府立二中	七条，七条第三，吉祥院，上鳥羽
上桂中学校	府立五中	桂，松尾，川岡，西京極（2，3年のみ）
北野中学校	市立二商	大將軍，柏野（3年のみ）仁和，朱雀第八（山陰線以北）朱雀第二（紙屋川以西）
四条中学校	市四条商	安井，太秦（大部，3年のみ）山ノ内，梅津，西京極（1年のみ）
桃山中学校	市立三商	伏見南浜，桃山
二条中学校	市二条女	出水，正親
城巽中学校	市女子商	本能，竜池，明倫

表6 新制高等学校の校舎同居状況¹⁴⁾

学 校 名	収 容 場 所	学 校 名	収 容 場 所
府 三 中	府 立 三 中	府 一 女	府 一 女
府 桃 中	府 桃 中	府 一 女	府 一 女
府 市 三 中	府 市 三 中	府 二 女	府 二 女
府 市 伏見女商	府 市 伏見女商	府 二 女	府 二 女
市 一 商	市 一 商	市 堀川女	市 堀川女
市 二 商	市 二 商	市 堀川女	市 堀川女
市 一 工	市 一 工	市 堀川女	市 堀川女
市 二 工	市 二 工	市 堀川女	市 堀川女
市 四 条 商	市 四 条 商	市 堀川女	市 堀川女
(予定) 菊 花 女	菊 花 女	市 美 工	市 美 工

13) 京都府教育研究所『戦後京都教育小史』，昭和53年，39頁。

14) 前掲書，39頁。

校が1つのキャンパスで学習せねばならなかった。

表7～10は旧制中学、高等女学校、実業学校、青年学校の生徒数、教員数である。戦争終了後には、京都市においては、既にかんりの数の生徒が中等教育を受けていたことがわかる。表11は、京都市内の高校の統計であるが、府立、市立の高校が少なく、私立の高校の数が多いのが特徴的である。また、この時導入された高校3原則（小学

表7 中学校の実状¹⁵⁾

(())内は学校数以下同じ)

学校名	区分	本科生 生徒定員	生徒数	学級数	教員数	第一学年 入学者	本科 卒業者
昭和15年度	(16)	12,100	11,764	236	471	2,990	1,846
〃 16	(16)	12,100	11,981	242	516	3,288	1,937
〃 17	(17)	13,624	15,456	279	562	3,794	2,012
〃 18	(20)	15,970	16,912	322	531	4,222	905
〃 19		—	—	—	—	—	—
〃 20		—	—	—	—	—	—
〃 21	(21)	18,670	19,866	371	605	4,723	1,961
公立 (13)	京都第一中学校	1,570	1,822	36	51	343	35
	同第二中学校	1,400	1,528	29	49	350	28
	同第三中学校	1,200	1,354	24	33	307	75
	桃山中学校	1,250	1,333	26	33	255	66
	福知山中学校	1,200	1,150	23	32	229	82
	舞鶴第一中学校	750	779	15	28	165	62
	宮津中学校	900	882	18	35	190	74
	園部中学校	650	749	13	24	193	157
	舞鶴第二中学校	700	656	14	27	152	58
	京都第五中学校	1,150	1,194	23	36	266	70
	伏見中学校	150	121	3	8	58	78
	加茂中学校	150	132	3	3	62	52
	市立第一中学校	1,000	905	18	35	207	66
	立命館第一中学校	1,250	1,291	22	38	320	246
私立 (8)	同第二中学校	1,000	1,022	17	26	245	174
	東山中学校	950	926	17	29	261	116
	平安中学校	1,250	1,065	17	35	341	64
	京都中学校	750	705	15	18	184	78
	大谷中学校	800	594	13	24	198	56
	同志社中学校	100	1,150	16	23	243	251
	東寺中学校	500	508	9	18	154	73

15) 前掲書, 276頁。

表8 高等女学校の実状¹⁶⁾

学校名	区分	本科生 生徒定員	生徒数	学級数	教員数	第一学年 入学者	本科 卒業者
昭和15年度	(28)	15,550	15,551	301	624	3,832	2,537
〃 16	(26)	16,480	17,456	341	971	5,050	3,272
〃 17	(28)	12,550	20,498	373	739	4,953	2,955
〃 18	(28)	18,800	19,790	369	645	4,574	2,933
〃 19		—	—	—	—	—	—
〃 20		—	—	—	—	—	—
〃 21	(25)	22,900	23,053	443	689	5,674	3,521
公立 (13)	府立第一高等女学校	1,600	1,620	34	66	347	304
	同第二高等女学校	1,250	1,309	25	35	350	105
	同桃山高等女学校	750	750	15	25	165	84
	同亀岡高等女学校	850	927	17	25	191	90
	同城南高等女学校	650	638	16	23	163	—
	同綾部高等女学校	800	612	13	24	155	95
	同福知山高等女学校	1,050	1,140	21	27	222	170
	同第一舞高等女学校	800	808	16	26	190	98
	同宮津高等女学校	700	633	14	24	162	89
	同第二舞鶴高等女学校	750	685	12	23	165	95
	同嵯峨野高等女学校	750	638	15	25	175	138
	京都市立堀川高等女学校	1,500	1,491	29	23	337	99
	京都市立二条高等女学校	1,300	1,386	26	43	330	216
私立 (12)	京都淑女高等女学校	450	497	9	14	130	55
	京都高等女学校	1,250	1,192	25	39	389	212
	菊花高等女学校	900	1,113	18	31	315	205
	同志社高等女学校	900	1,133	18	34	265	228
	精華高等女学校	1,000	1,034	20	16	243	224
	平安高等女学校	750	658	15	21	180	141
	華頂高等女学校	800	856	16	27	225	194
	家政高等女学校	1,150	980	17	25	190	125
	明德高等女学校	550	541	10	21	180	107
	西山高等女学校	400	518	8	17	145	129
	光華高等女学校	1,250	1,175	21	30	280	177
	成安高等女学校	750	719	13	25	180	141

注) 京都府治要覧

16) 前掲書, 277頁。

表9 実業学校の学校別生徒・教員数¹⁷⁾

(従来の乙種に類するものを除く)

学校名	区分	生徒数	学級数	教員数	第一学年 入学者	本科 卒業者
(昭和21年度)		10,954	219	423	2,670	2,001
京都農林学校		95	2	7	—	39
木津農学校		500	10	23	155	86
亀岡農学校		553	10	21	160	78
須知農学校		440	8	24	116	63
城丹蚕業学校		549	10	20	167	62
峰山工業学校		693	15	26	150	33
美術工芸学校		264	8	21	105	35
第一工業学校		1,630	34	54	305	133
第一商業学校		1,517	28	64	342	514
第二商業学校		1,041	22	37	336	130
第三商業学校		270	5	10	150	42
四条商業学校		810	16	27	220	136
福知山商業学校		122	2	7	—	72
京都商業学校		442	8	18	142	80
立命館商業学校		154	2	7	—	170
京都成安継日女学校		104	3	6	41	44
京都高等手芸女学校		1,225	25	35	200	158
洛陽高等手芸女学校		545	11	16	81	126

表10 青年学校の校数および生徒・教員数(昭和21年度)¹⁸⁾

科	区分	校数	生徒数	学級数	教員数
総	数	50	11,595	422	574
農	業	4	889	32	54
商	業	—	—	—	—
工	業	28	4,274	142	194
水	産	—	—	—	—
農	業・商	4	2,063	74	96
農	業・工	5	995	36	43
農	業・水	—	—	—	—
商	業・工	8	3,361	136	182
農	業・商業・工業	—	—	—	—
林	業・農	1	13	2	5
農	業・商業・工業・水産	—	—	—	—

17) 前掲書, 275頁。

18) 前掲書, 275頁。

表11 京都市内の新制高校¹⁹⁾

	学 校 名	設立年月	備 考
国立	京都学芸大学教育学部附属高等学校	40年4月	41年4月京都教育大学教育学部附属高等学校と改称
府立	鴨沂高等学校 桂農業高等学校 朱雀高等学校 盲学校 桃山高等学校 桃山女子高等学校 山城高等学校 洛北高等学校 鯉学校 嵯峨野高等学校 洛東高等学校	23年4月 23年4月 23年4月 23年4月 23年4月 23年4月 23年4月 23年4月 23年4月 25年4月 29年4月	{23年10月30日廃止，翌日桂高等学校として 発足する 23年10月桃山高等学校に吸収される 23年10月廃止，25年4月新たに発足する
市立	西京高等学校 美術高等学校 伏見高等学校 堀川高等学校 洛陽工業高等学校 紫野高等学校 塔南高等学校	23年4月 23年4月 23年4月 23年4月 23年4月 27年4月 38年4月	38年4月西京商業高等学校と改称 24年3月日吉ヶ丘高等学校と改称 38年4月伏見工業高等学校と改称 {23年10月洛陽高等学校と改称 {38年4月洛陽工業高等学校と改称
私立	大谷高等学校 家政学園高等学校 華頂女子高等学校 京都高等学校 京都烏丸高等学校 京都手芸女子高等学校 京都商業高等学校 京都女子高等学校 光華高等学校 淑女高等学校 成安高等学校 精華女子高等学校 聖峰高等学校 東寺高等学校 同志社高等学校 同志社女子高等学校 同志社商業高等学校 花園高等学校 東山高等学校 平安高等学校 平安女学院高等学校	23年4月 23年4月	26年3月廃止 26年3月廃止 32年5月京都橘女子高等学校と改称 27年3月廃止 26年4月成安女子高等学校と改称 43年4月京都精華女子高等学校と改称 26年3月廃止 37年6月洛南高等学校と改称 51年3月廃校

明徳女子高等学校	23年4月	29年3月廃止
洛陽技芸高等学校	23年4月	{27年6月洛陽技芸女子高等学校, 38年4月洛陽女子高等学校と改称}
立命館高等学校	23年4月	
立命館神山高等学校	23年4月	27年3月廃止
立命館夜間高等学校	23年4月	27年3月廃止
大谷高等女子学院	24年4月	25年3月光華女子学園と合併
東寺夜間高等学校	24年4月	35年9月東寺高等学校定時制部となる
明徳夜間高等学校	25年4月	{29年3月女子商業高校と合併, 明徳商業高等学校として発足する}
両洋高等学校	26年4月	
一燈園高等学校	27年4月	
聖母学院高等学校	27年4月	
明徳女子商業高等学校	27年4月	{29年3月夜間高等学校を合併し, 明徳商業高等学校として発足する}
ノートルダム女学院高等学校	28年4月	
洛星高等学校	29年4月	
京都西高等学校	32年4月	
吉水学園高等学校	34年4月	

注) 昭和46年3月を下限とした。

区制, 男女共学, 総合制) が日本全国で最後まで維持, 存続された。このように京都府, 市では, 新制度を取り入れる際にはたいそう受身的であったが, その反面, 新制高校の精神を頑固にまで維持しようという保守性を持っている。それは, 単なる保守ではなく, なにか信念のようなものに裏うちされた時代を超越したものを守ろうとする精神でもある。

表12は, 京都市内の新制大学の統計である。京都市内という狭い地域に, かつ100万人の人口の都市には多すぎる大学が存在することは, 京都が知的生産の拠点であることを如実に示している。

おわりに

京都は伝統的な町である。その伝統は, 天皇, 公家, 町衆が重なりあって独自のものを作りだしている。優雅さ・上品さと反骨精神が同居した町なのである。崇高さ・尊厳さと日常性が併存する。それらは京都市民一人ひとりの内面に共存するのである。教育においても, 高い理念と現実性が併存する。小学校設立に際しては, 地域社会の総合的施設という現実性, 石門心学を取り入れた町人哲学という町衆自身の下からの

表12 京都市内の新制大学²⁰⁾

	学 校 名	設立年月	備 考
国 立	京都大学	24年 5 月	26年 4 月京都工芸繊維大学工芸短期大学部設立 41年 4 月京都教育大学と改称
	京都工芸繊維大学	24年 5 月	
	京都学芸大学	24年 7 月	
府 立	京都府立西京大学	24年 4 月	{34年 3 月京都府立大学と改称, 39年 3 月京都 府立大学女子短期大学部設立
	京都府立医科大学	27年 4 月	
市 立	京都市立美術大学	25年 4 月	44年 4 月京都市立芸術大学と改称 44年 4 月京都市立芸術大学に合併
	京都市立音楽短期大学	27年 3 月	
	京都市立看護短期大学	29年 4 月	
私 立	同志社大学	23年 4 月	{25年 4 月同志社大学短期大学部設立されるも 33年12月廃止
	立命館大学	23年 4 月	
	大谷大学	24年 4 月	25年 3 月大谷大学短期大学部設立 25年 3 月京都女子大学短期大学部設立
	京都女子大学	24年 4 月	
	京都薬科大学	24年 4 月	25年 3 月龍谷大学短期大学部設立 34年 4 月京都外国語大学設立 39年 4 月光華女子大学設立 40年12月宇治校舎に移転
	種智院大学	24年 4 月	
	同志社女子大学	24年 4 月	
	花園大学	24年 4 月	
	仏教大学	24年 4 月	
	龍谷大学	24年 4 月	
	京都外国語短期大学	25年 3 月	
	成安女子短期大学	25年 3 月	
	光華女子短期大学	25年 4 月	
	平安女学院短期大学	25年 4 月	
	池坊短期大学	27年 3 月	
	華頂短期大学	28年 1 月	
	京都家政短期大学	35年 2 月	
	ノートルダム女子大学	36年 4 月	
	京都産業大学	40年 4 月	
	橘女子大学	42年 4 月	
	京都精華短期大学	43年 2 月	
	聖母女学院短期大学	43年 4 月	
	嵯峨美術短期大学	46年 2 月	

注) 昭和46年 3 月を下限とした。

20) 前掲書, 351頁。

教育力という現実的な側面と、明治政府の行政的措置に先んじて小学校を市内各地に設立したという時代を先取りした側面は京都人でしかできない仕事なのである。また、新島の同志社は、キリスト教という江戸時代迫害されていた宗教団体により設立されたものであり、大阪で拒否されていたにもかかわらず、また御所という天皇の住居だった場所に隣接するにもかかわらず、京都市民はそれを暖かく受け入れた。同志社の国際性、進歩性が京都の人々を引き付けたのであろう。

京都の教育の特徴は、他の模倣ではなく、自己がつくりだす独自性にある。京都帝国大学が、東京帝国大学とは異なり、権力とは一步距離を置いた研究活動をすることでその存在理由を求める。また、同志社は新島の個性を打ち出すことにより、全国の若者を引き付ける。これが京都の教育の魅力なのである。近年、市内の小学校の統廃合が話題になる。それは番組小学校の消滅を意味する。京都の独自性が失われつつあるのである。

最近、京都の大学がいろいろな制約を嫌って、市外に流出しつづけているが、これは、京都の本来の理念、教育機関を市民が招くという動きとは逆行している。さまざまな教育機関・施設が狭い京都市内で共存し、切磋琢磨しあう状況が必要であろう。しかしながら、視点を変えてみると違った思考もできる。第3高等学校が誘致されたのは、当時としては京都市外の吉田村であった。教育機関ができるとともに新しい町づくりがはじまる。大学が市外に移転しても、大学の本体・本部は京都市内に存在し、たえず、市外の大学分校に情報を発信しつづけている。京都の町が拡大したと考えればよいのである。京都の中心部に文化情報の強力な発信基地があればよいのである。われわれは将来、京都をどのような情報の発信基地すべきかのビジョンを持つ必要に迫られている。小学校の統廃合、大学の市外流出の問題はそれ自身の個別の問題ではなく、京都市民の京都観、文化観、教育観という基本的な理念の問題として問われてくるのである。